

第196回研究科委員会・第300回教員会議 議事要録

日時：令和2年3月5日（木） 11：00～12：20

場所：後援募金記念棟 会議室1-2

議題

研究科委員会

[審議事項]

1. 入学試験委員会

(1) 令和2年度大学院入試（3次募集）の合否判定について

3次募集は志願者1名であったが、欠席したため受験者0名となったことが報告され、了承された。大学院の入試状況が投影され、共生システム理工学専攻博士前期：定員53名・合格者37名・入学手続き者34名、環境放射能学専攻修士課程：定員7名・合格者2名・入学手続き者2名、共生システム理工学専攻博士後期課程：定員6名・合格者3名・入学手続き者3名であることが報告された。定員を満たしておらず、改善策の検討と実施が必要であることが述べられた。

共生システム理工学専攻会議

[審議事項]

1. 研究科長

(1) 大学院博士後期課程の教育組織とカリキュラムの変更について

資料1に基づき、二つの領域を設ける案が紹介された。領域毎に開講している特別講究の確定や入試要項の改定が5月ごろまでに必要である。次回の共生システム理工学専攻会議での決定を目指すので、研究科長に意見を寄せるように要請があった。

教員会議

[審議事項]

1. 学類長

(1) 人事委員の選出について（選挙）

2名連記無記名投票などの選出方法が説明され、選挙が行われた。投票総数44名88票で、3名の教授が選出された。

(2) 客員教員の任用について

回収資料に基づき説明され、客員教授1名の任用が承認された。

(3) 学類運営会議委員（分野長及び副分野長）の選出について（補欠選挙）

資料2に基づき選出方法が説明され、分野長が評議員に選出された二つの分野の補欠選挙が行われた。当該分野教員による投票の結果、数理・情報システム分野及び生命・環境分野で各1名が選出された。

2. 入学試験委員会

(1) 令和2年度一般選抜（前期日程）の合否判定について

回収資料に基づき、過去の入試状況と今年度の受験者数などが説明され、合否判定が行われた。募集定員70名、志願者163名・受験者157名のうち93名を合格とすることが提案され、了承された。合格者数の提案にあたっては、AO入試の合格者を募集定員より2名少なくしたことと、推薦入試合格者のうち1名が入学を辞退したことを考慮している。

合格者は男性69名・女性24名、福島県内27名・県外66名など、情報提供があった。

数学で入試要項に記載された出題範囲の外から出題するという入試ミスがあった

ことが報告された。今までになかったミスであるため、チェック体制を検討し強化することが述べられた。

[報告事項]

1. 学類長

(1) 教員の採用について

定年退職予定者と採用者数や昇任者数の見込みが書かれた人事計画ロードマップが投影され、2021年4月に2名の採用が可能であることが説明された。

拡大人事委員会(人事委員会に分野長を加えた委員会)での検討状況が紹介された。重視している「強みの強化」・「地域貢献」・「カリキュラムの維持」についてキーワードが投影された。2021年4月に採用したい研究分野が紹介され、意見交換が行われた。

専任者が不在となって基礎的な科目がオムニバス化されるなどして、教育の責任が希薄にならないような配慮が必要である。「カリキュラムの維持」の優先度は低めとされているが、教育の質を維持するためにカリキュラムの維持は重要である。昇任年齢が高くなっているなどの課題を抱えるなかで、2021年度に2名を採用して学類が保有しているポイントを使い切ってよいのか。強化する研究分野の選定には、客観的なデータも欲しい。などの発言があった。採用に当たっては年齢を考慮するのかとの質問があり、募集は「准教授または講師」として若手を採用することを想定しているとの回答があった。今回の意見交換も踏まえて拡大人事委員会で検討を進めていく。

(2) 交流スペースについて

評議員より資料3に基づき、後援募金記念棟の一部を交流スペースとして活用することの検討状況が報告された。ホワイトボードなどの設置、待ち合わせや簡単な打合せができるフリースペース設置などの提案がなされ、早期の施行を希望する発言があった。

2. 国際交流センター運営会議

(1) 学生交流協定に基づく学生の派遣について(期間短縮)

資料4に基づき、新型コロナウイルスの影響で学生派遣期間を短縮したことが報告された。

教育研究評議会報告は、次回の教員会議(3月11日(水))に行うこととした。